

●真竹納入 9月11日

光陰矢の如しとはよく言ったもので、異常に暑かった8月も過ぎ、長雨になやまされていたらもう9月16日、めっきり涼しくなりました。そして昨日馬坂川を歩くとクヌギのドングリと、マテバシイの木の実が沢山落ちていました。秋を感じさせてくれました。

さて、9月のなると里山の会は急に忙しくなってきます。コロナウィルス禍のもと緊急事態宣言が延長されて、公共施設を利用した催しは、閉館のためすべて中止せざるを得なくなりました。25年間続けて来た里山の会の環境講演会もできなくなりました。講師をお願いしてきた澤井健二先生や奥西一夫先生には多忙な中、御無理をお願いして日程の擦り合わせなどご用意いただきましたのに残念な結果になりました。

9月の中旬になりますと、いよいよ竹蛇籠の製作講習会が始まります。先日皆さんが木津川市の御藪で印をつけてくださった真竹の運び出しが11日に行われ、例年どおり井手町の玉水橋の製作現場に50本が運び込まれました。今回は太めの竹で4分割すると幅が広すぎるほどの竹が運び込まれ、準備万端で森島さんが受け取っていただきました。明日から始まる制作に間に合いました。

●竹蛇籠製作講習会 初日9名の参加

昨年と同様に竹蛇籠制作講習会の開催が9月12日日曜日午前9時から開始されました。あいにくこの日は心地良い秋晴れでなく、早朝は雨で、出かけにくい天候でした。しかし、予定していただいていた8名もの方々が時間通りに顔を揃えてくださいました。去年はご主人の介護でご苦労をされてきた福井さんも元気な顔を見せて下さって、活気づきました。また篠原さんはやる気満々で休憩を勧めても、底辺の編み方を是非とも身につけたいと懸命に頑張っていたいただきました。初日でもあり、作業のひとつひとつを確認しながら進めて、思い出しながら間違いなく1基分を編み上げることができました。そして底辺分も3本を編みあげて、次回18日に仕上げる準備をすることができました。初日にして心意気が揃った顔ぶれからお互いに伝わって、楽しく作業を進めることができました。この日、参加してくれた篠原あすみちゃんは会場を大きな竹箒でキレイに掃いてくれました。また、ペンチやクリッパーを使ってクリップや番線でしめ金具を作ってくれました。



●新入会員大歓迎

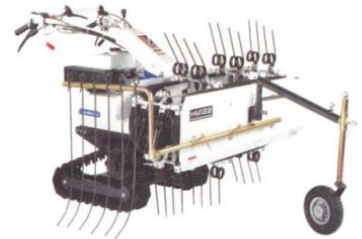
里山農園活動に興味をもって入会していただいた京田辺市興戸からの方は、子育て真最中で現在活動していただいている方からの誘いでのことなので、顔見知りが増え、力強い仲間となっていくことだと思います。また、里山の会の植物観察や調査に大きな興味をもってくださって伏見区向島の方からご加入の連絡がありました。これもホームページをごらんになっていただき冊子「木津川の草花」を購入の上、入会していただくということなので、大変ありがたいことです。これまでは一度に二名もの申し込みがあることはなかったことです。大きく期待が膨らみましたね。

●河川技術研究会（10月3・4日）コロナ感染用のため中止を決定

2020 年の 10 月に予定されていたこの研究会には、全国各地から専門家の皆さんが御参加いただけると期待に胸を弾ませてきました。しかしコロナウイルス第五波が若者を中心に拡大し、医療現場が各地でひっ迫する現状から、緊急事態宣言が延長されたことで中止になりました。やむを得ないかと思いますが、期待をしてきたものにとっては残念至極です。全国でも数少ない試行を見ていただけないことは残念です。真剣に取り組んでいる現場を、本当に見てほしいと思います。

●ハンマーモア第 1 号機 重大故障発生

里山の会が 25 年間植物観察調査をつづけてきたところは身近な里山や木津川の堤防などした。特に木津川での魚とりや希少種の植物調査に取り組みやすかったのです。そして顧問の先生方のご尽力やご指導のおかげで、今日では希少種とされる植物を多数発見してきました。それを写真集や標本集にまとめることができました。何よりも成果物を公的機関に寄贈し、後世の研究者へのデータとしてきたことは誇れる成果です。そしてそうした結果木津川堤防での希少植物の保存のために調査管理業務が国交省近畿地方整備局淀川河川事務所から業務受託を受けての活動に結びついてきました。それは 2021 年度・16000 m² 42 か所に及んでいます。それを可能にしてきたのが、ハンマーモアという除草機が威力を発揮してくれたからです。急傾斜地の除草作業は肩掛け草刈り機では能率が悪く年齢が進むにつれて大変は重労働でした。ここで威力を発揮してくれたのはハンマーモアだったのです。それが 10 年を経過した今年、機械の損傷が進み故障が目立ち始めました。今、里山の会が高齢者が頑張っていますが、体力の低下は否めません。そこで各作業には機械化動力化に頼らなければならない時期にきています。特に堤防の急傾斜地の集草作業を人の力での作業は大変な重労働になってきていて、このチャンスに集草機（大型機械熊手）の購入（約 70 万円）をすべきではないかと議論が持ち上がっています。



●会誌 51 号発行に伴って意義や目的再確認

50 号の会誌発行は、3 月遅れとなってしまいました。原因は原稿集めの遅れの他に、編集者がいなかったこと、また企画者などのスタッフの人的不足が考えられます。また作業の分担の不十分さも目につきます。これまで長年続けてきたパソコン教室でかなりの皆さんが文字の打ち込みや編集機能を使い越せる段階に到達されてきましたので、冊子づくりの第一歩はクリアできると思います。

本日の事務局会で会誌発行の意義目的を再検討しました。①未参加者への活動報告 ②会員同士の交流親睦、③活動の透明化 にあることが確認されました。そして今後も発行を継続の必要性が明確にされました。

編集内容にも大きな異論はなく、従来通り 1 巻頭の言葉 2 講演報告 3 調査研究報告 4 活動報告 5 仲間の広場 6 感想文 7 資料の 7 分野で編集していくことになりました。原稿集約に多くの会員社員の協力を得られるよう努力が必要だと一致しました。また発刊当初連載いたしました郷土歴史会の水山さんの「村の歴史」に登場する場面の現代版の写真添付に取り組んではとの提案もありました。事務所に原本を用意していますので一読の上、ご協力を頂ければと思います。

●里山の会「事務所」北側の農道拡張のため建物の取り壊しと買収のための測量実施

9 月に入って以後、事務所の北側の通路の幅拡張の依頼が再燃してきて、基本的な測量が終わって、いよいよ具体的に買収金額や補償内容の話に進み出しています。近いうちに里山の会事務所が道路拡張のため取り壊し計画が具体化してくる段階になるようです。これによって里山の会の事務所存続をどのようにしていくのかが求められてくることになります。当然予想される事態に対応するために、皆さんの英知をしっかりと集約する時を迎えています。業者の立場からすれば寸時を惜しんで事態は進展すると予想されるでしょう。